

技術・家庭 家庭分野 3年間を見通した年間指導計画案 例⑨

——サスティナブル（持続可能な）社会を構築し，生きる力を育む——

1年 35時間	週（時）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35									
	学習内容	A 家族・家庭と子どもの成長			B 食生活と自立																												D 身近な消費生活と環境												
		成長と家族		中学生の栄養と食事について考えよう						食品の選択と保存について考えよう				五感を使って楽しく調理しよう								地域の食材と食文化にふれよう 生活の課題と実践			エコクッキングをしよう			消費者としての自覚をもとう																	
				家庭分野ガイダンス	周囲の人びと	わたしの成長と家族や	「食べる」ってどういうこと？	生活のリズムと食事	栄養素のはたらき	食品と栄養素の関係	一日分の献立をたててみよう	生鮮食品について	食品加工の目的について	食品添加物を使用する目的	食品の表示について	食品の安全性と情報	調理の計画…基礎編	きゅうりで包丁名人	包丁を上手に使う…	調理の計画…加熱調理で料理好きに	肉の加熱調理	魚の加熱調理	調理実習をふり返ろう…技能編	調理実習をふり返ろう…栄養編	調べよう	地域の食材・食文化を	課題の実践計画	課題の実践報告	エコクッキングを計画しよう	野菜を使った環境に配慮した調理	これからの食生活	家庭生活と消費	商品の選択と購入	よりよい消費生活のために											
	授業時数	2		7						5				10								3			4			4																	
学習指導要領	A(1)ア		B(1)アイ				B(2)アイ				B(2)ウ				B(3)ア								B(3)イウ			B(3)ア			D(1)アイ																
教科書該当頁	①～25		68～87						88～101				102～121								134～137			122～129,138～139			206～231																		
2年 35時間	学習内容	C 衣生活・住生活と自立																												D 身近な消費生活と環境															
		1 自分らしく着る・快適に着る／自分の衣生活を組み立てよう										生活の課題と実践		3 生活を豊かにする物をつくる／生活に役立つ小物づくり								2 快適に住まう／住空間を整えてみよう						持続可能な社会をつくろう																	
		人にとっての被服	衣服のはたらき	感じのいい着方	衣服の活用と選び方	衣服の手入れ	衣服の性能	衣服の表示	衣服の洗濯ゝ実習	衣服の補修ゝ実習	環境に配慮した衣生活	課題の実践まとめ	実践報告	製作の計画	縫う前に知っておこう…用具、ミシンの使い方	楽しく製作しよう				製作のまとめ	住まいのはたらき	共に住まう	住まいの安全	快適な住まい	環境に配慮した住まい方	環境に配慮した生活ゝ水・大気ゝ持続可能な社会に向けて																			
	授業時数	14												10								7						4																	
	学習指導要領	C(1)ア		C(1)イ				C(1)ウ				C(3)イ				C(3)ア								C(2)ア		C(2)イ				D(2)ア															
教科書該当頁	148～173												188～203								174～187						226～237,254～257																		
3年 17・5時間	学習内容	A 家族・家庭と子どもの成長																								・ 食育を重視し，ガイダンスの後に食生活の内容を配列しました。そのほか，生徒の興味に即した題材の配列を意識しました。 ・ 子どもたちが主体的な判断でサスティナブル（持続可能な）社会を生きるために，環境と生活のかかわりについては，衣食住それぞれの場面で取り上げるようにしました。 ・ この年間指導計画案の具体的な学習指導案は裏面に掲載しています。																			
		幼児の生活と遊び							幼児との交流～幼稚園へ行こう							家庭と地域	わたしと家族																												
		幼児期ってどんな時代？	幼児を知ろう	幼児の生活の場	幼児の体の発達	幼児の心の発達	子どもの発達と家族	子どもの成長と地域	子どもの遊びと発達	交流の計画	交流の準備	交流	（各自）	交流のふり返り	（全体）	交流のふり返り	わたしたちと家族・家庭と地域	これからのわたしと家族																											
	授業時数	8							7							1	1.5																												
	学習指導要領	A(3)アイ							A(3)ウ							A(2)ア	A(2)イ																												
教科書該当頁	28～47							48～55							26～27	56～65																													

第1学年

学 習 内 容 (頁は教科書該当頁)		時間数	学 習 活 動 (■この項の学習課題／○生徒の活動, ☆教師の活動)
A 家族・家庭と子どもの成長	自立をめざして学ぼう！ (p.11～15)	2	■家庭分野の学習の見通しを立てる。 ○小学校の学習のふり返るとともに教科書の口絵などから中学校の学習の内容を知り、3年間の学習の見通しをもつ。 ■自分の成長をふり返り、家族や家庭生活との関係を考える。 ○自分の成長や生活は、家族に支えられてきたことに気づく。 ○家庭のはたらきや仕事について知り、自分の自立度を考える。 ☆アンケートを用意し、小学校の学習と中学校の学習の関連を意識させ、意欲的な学習を促す。
	1. わたしの成長と家族 (p.16～21) ①わたしの成長 ②わたしを支えてくれた家族や周囲の人びと 2. わたしたちと家族・家庭と地域 (p.22～25) ①家庭のはたらき ②家庭生活を支える仕事		
B 食生活と自立	1. 健康と食生活 (p.68～87) ①食事について考える ②生活のリズムと食事 ③栄養素のはたらきと食品 ④中学生に必要な栄養 ⑤食事の計画	7	■食事の役割を知るとともに、健康に良い食習慣について考える。 ○自分の食習慣をふり返るとともに、中学生に必要な栄養素の種類とはたらきを知る。 ☆中学生になって改めて気づく心身の成長に応じた栄養について触れ、自らの問題として食生活にかかわれるよう指導する。 ○食品の栄養的特質を理解し、中学生に必要な1日分の献立を立てることができる。 ☆実際の食品を食品群に分類したり、計量させたりして、中学生に必要な栄養量を満たす1日分の食品の概量を実感させる。
	2. 食品の選択と保存 (p.88～101) ①食品が口に入るまで ②生鮮食品の選び方 ③いろいろな加工食品 ④加工食品の表示 ⑤加工食品の選び方 ⑥保存のしかたを考える ⑦食品の安全と情報	5	■食品の選択と保存についての基礎的・基本的な知識や技術を得し、健康的な食生活を工夫し実践する。 ○用途に応じた見分け方がわかるようにする。 ☆身近な生鮮食品や加工食品を取り上げ、比較検討させるのもよい。 ○加工食品のパッケージを調べ、表示の意味を知る。 ○食品にあった保存方法を理解する。
	3. 調理をしよう (p.102～121) ①調理の計画 ②調理の基本 ③肉の調理 ④魚の調理	10	■調理についての知識・技能を修得し、地域の食文化について関心と理解を深める。 ○食材の調理上の性質を踏まえ、調理の目的に合った調理方法を理解する。 ○必要な手順や時間を考えて計画を立て調理し、後始末や実習後の評価の含めた一連の活動を安全で衛生的に行う。 ☆日常よく用いられる食品を取り上げ、基礎的な日常食の調理ができるようにさせる。 ☆安全と衛生に留意して食品や調理用具などが扱えるようにさせる。
	4. 地域の食材と食文化 (p.134～137) ①地域の食材と郷土料理 ②受け継がれる食文化	3	■地域の食材を生かした調理の学習を通して、地域の食文化に関心をもつとともにその意義について理解を深める。 ○地域の食材や食文化について調べ、家庭で実践し、それを記録し、報告する。その際、自分自身の食生活との関連や改善に生かすよう工夫する。 ☆伝統的な行事食や郷土料理の学習を通して、食事には文化を伝える役割があることを理解させるようにする。 ☆家庭での実践に際してはその意義を伝え、家族にも協力を仰ぐようにする。
	3. 調理をしよう (p.122～129) ⑤野菜の調理	4	■食生活と環境とのかかわりを意識し、エコクッキングの実践により具体的な食生活上の環境への配慮の方法を考える。 ○日本の食料事情を知り、食材を無駄なく利用することの重要性に気づく。 ○環境に配慮した食生活の送り方として自分にできることを考えてみる。 ☆地場でよくとれる野菜を知らせ、これを生かす調理方法を提示する。
	4. 地域の食材と食文化 (p.138～139) ③地域と世界へ目をむけて		
D 身近な消費生活と環境	1. 家庭生活と消費 生活に必要なものの流れ (p.206～209)	4	■消費者として主体的に行動することができるよう、自覚を高め、商品の適切な購入と活用ができる。 ○中学入学に際しての消費行動など、身近な消費行動をふり返り、家庭生活における消費の重要性に気づく。 ○販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資やサービスの適切な選択や購入、活用ができるようにする。 ○中学生として、生活の仕方や消費のあり方を改善するなど、消費者としての自覚をもつ。 ☆情報社会における消費生活の変化に対応して、中学生の消費行動とかかわりのある具体的な事例を想起させ、消費者の権利と自覚を具体的に考えるようにさせる。
	2. 商品の選択と購入 (p.210～217) ①商品購入のプロセス ②生活情報の活用 ③商品の価格 ④販売方法と支払い方法 3. よりよい消費生活のために (p.226～231) ①消費生活のトラブルを防ごう ②消費者の権利と責任 ③消費者を支えるしくみ		

第2学年

学 習 内 容		時間数	学 習 活 動 (■この項の学習課題／○生徒の活動, ☆教師の活動)
C 衣生活・住生活と自立	1 自分らしく暮る・快適に暮る	14	■衣服の機能について関心高め、衣服の洗濯、着用、手入れについて取り組み、自分の衣生活を工夫することができる。 ○目的に応じた衣服の着方を考え、工夫できる。 ☆視聴覚教材を活用したり、家で眠っている衣服や和服の実物を用意したりと、イメージが具体的に化すように促す。 ○衣服の材料や汚れに応じた日常着の洗濯と衣服の状態に応じた適切な補修ができるようにする。 補修に際しては手縫いの技能を生かすようにする。
	1. 日常着の活用 (p.148～157) ①衣服のはたらき ②自分らしく目的に合わせた着方 ③衣服の活用と選び方 2. 日常着の手入れ (p.158～169) ①汚れと手入れ ②手入れと表示 ③衣服の洗濯 ④衣服の補修とアイロンかけ		

学 習 内 容		時間数	学 習 活 動 (■この項の学習課題／○生徒の活動, ☆教師の活動)
C 衣生活・住生活と自立	1 自分らしく暮る・快適に暮る		3. 環境に配慮した衣生活 (p.170～173) 生活の課題と実践
	3 生活を豊かにする物	10	1. わたしや家族の生活を豊かにする工夫 (p.188～190) 2. 布を用いた物の製作 (p.191～203) ①製作の前に知っておこう ②製作して、活用しよう
	2 快適に住まう	7	1. 住まいのはたらき (p.174～179) ①住まいのさまざまな役割 ②共に住まう 2. 安全な住まい (p.180～183) ①住まいの安全対策 ②災害への備え 3. 快適な住まい (p.184～187) ①室内の空気調節 ②住まいと音
D 身近な消費生活と環境		4	4. 環境に配慮した生活 (p.226～237) ①環境への影響を考える ②エネルギー消費とCO ₂ 排出を減らす ③水を節約し、排水の汚れを減らす ④環境への影響を考えた消費生活 ⑤持続可能な社会へ向けて これからの家庭生活と地域・社会 (p.254～257)

第3学年

学 習 内 容		時間数	学 習 活 動 (■この項の学習課題／○生徒の活動, ☆教師の活動)
A 家族・家庭と子どもの成長	3. 幼児の生活と遊び (p.28～47) ①幼児期ってどんな時代？ ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④子どもの成長と家族の役割 ⑤子どもの成長と地域 ⑥幼児の遊びと発達 ⑦幼児の遊びを支える	8	■周囲の人の保護を必要とする幼い子どもに関心をもち、幼児の心身の発達と生活、それを支える家族の役割や遊びの意義について理解し、幼児とのかかわり方を工夫できるようにする。 ○幼児の心身の発達の特徴や生活について知るとともに、幼児期における生活習慣の形成や周囲の人びととのかかわり方を知り、幼児期の意義について理解を深める。 ☆幼児と周囲の人びととの観察や視聴覚教材を活用して幼児を身近に感じて学習が展開できるよう工夫する。
	4. 幼児とのふれ合い (p.48～55) ①ふれ合い体験の前に ②ふれ合い体験をする ③ふれ合い体験をふり返る	7	■幼児とふれ合う具体的な体験を通して、幼児への関心を深めるとともにかかわり方を工夫する。 ○幼児の発達を踏まえ、その時の幼児の状況に応じて接し方や話し方、遊び方などが工夫できるよう、事前の学習を十分に行い、かかわり方を工夫してふれ合い体験ができる。 ☆事前に訪問先の幼稚園や保育所と連絡をよく取り合い、ふれ合い学習が効果的に実施できるように工夫する。
	2. わたしたちと家族・家庭と地域 (p.26～27) ③わたしたちの家庭生活と地域	1	■家庭や家族の基本的な機能と家庭生活と地域のかかわりについて理解する。 ○家庭や家族の基本的な機能や家庭生活と地域の関係をこれまでの学習や調査などにより理解し、家庭生活が地域と相互に関連しあっていることに気づくとともに家庭や家族の重要性を理解できるようにする。 ☆中学3年生の生徒はこの時期進路をめぐる葛藤の時期にあるが、卒業を目前に不安と期待に胸躍らせている時期である。全体に発表する形式は避け、各自で家庭の大切さをふり返るとともに、基本的な役割を押さえるようにする。
	5. これからのわたしと家族 (p.56～65) ①中学生と家族とのかかわり ②これからのわたしと家族との関係	1.5	■家族とのかかわりやこれからの自分の生活に関心をもち、家族関係をよりよくする方法を具体的に考えることができる。 ○家族関係をよりよくするためには、お互いの立場や役割を理解し協力する気持ちが大切なことに気づき、これからの生活を展望する。 ☆家族をめぐる内容は新聞やドラマなどで多く目にするので、時期にあった内容を動機づけとし具体的に考えさせるようにする。